# 木漏れ日の Relaxing Archtecture

## Concept

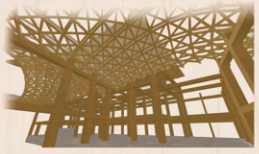
秋田駅東口から直通通路でアクセスできる施設は、木材利用の推進を促すための高さ16mにわたる大規模木造建築。対比した鋭さと柔らかな曲線を用いて自由に表現された木造施設が人々を歓迎するこの施設は、「見る」「聴く」「触る」「嗅ぐ」などの五感で感じるべく様々な体験要素を組込み、市民の木材への関心を高め、木材についての理解を深める目的がある。

b1～3Fにわたり異なる体験空間が向かい入れる。b1にはトラスに囲まれた、木材家具など身近な木材製品の加工場がある。イベントスペース付のエントランスの他に1Fは自然を体で感じる空間、トラスを見て学ぶ空間。2Fは資料室と木育コーナーのほかに、大樹の切り株や側面で樹齢を感じるコーナーがある。そして3Fはテラス付きカフェで駅前の街並みを眺望できる空間である。

様々な種類の木材と自由な表現で木材の利用可能性を感じてほしい。
そして関心を持つことにより、CO2の排出による地球温暖化に向き合い、木材利用の新たな可能性を提唱する。

## 構造

構造部材は秋田杉を利用した燃エンウッドを使用する。
表面を秋田杉にすることで杉のほのかな香りを楽しみつつ、耐火性に優れた木造建物を実現させた。燃エンウッドは集成材で出来た、荷重支持部に鉄筋を埋め込むことで、強度と硬さを実現し大スパンの木造建築が可能となる。地域の木材を積極的に使うことで森林資源の循環を促し、社会的取り組みへの寄与・貢献も期待できる。



木を編むように組み合わせ、柔らかな極性の屋根を作成した。
薄い集成材を6層に重ね、上下の板に2枚の木をクロスさせた。
そして、4枚の交点を重ねて接合するという木の特性を生かした工法になっている。

## 木材の動き

規模の大きい建物を建てることは「伐る→植える→育てる」という森林の循環サイクルを助け、地球の二酸化炭素削減に大きく貢献する。またこの循環サイクルの移動距離を小さくすることで更に二酸化炭素の排出の削減が可能である。このことから今回の施設ではサイクルの一部を移動せずに行えるようにし、環境への配慮を図った。

## 土地

秋田駅の東口から徒歩1分。現在駐車場となっている区画の一部を土地として選定した。

今回建設予定地とした土地は、現在大きな駐車場となっている。駐車場がすべて埋まっていることは少ない。そこで駐車場の一部を少なくし、歩行につながる施設とすることで土地の有効活用と駐車場の利用増加を図った。

駅から出て、魅力的な外観の建築物が目に入れば木材について関心がなくとも感じやすいだろう。そこから木材の魅力について引き込まれるように学び、将来の木材の在り方について市民が考える機会を与えたいという狙いで駅前の土地を選定した。

隣には六条小路と金陵周のロータリーがあるため、バスの待ち時間に気軽に学びつつ、楽しめる場所としての利用も期待できる。

## ○見る　トラスの間

木造建築物を建てる際に利用される構造トラスを近くて見て学ぶ空間「トラスの部屋」。
トラスは構造の強化だけでなく、デザイン性が高くおしゃれな空間にも利用される。
すべて違う組み方であり、木の組み方を近くて見ることができるので、細かな接合部なども観察することができる。

## ○ 触る

切り株や木の断面を触り、木の樹齢について学ぶことができる空間。

## ○サイクルの一部を体験

この施設では木材のサイクルの一部である製材から家具への加工、販売を行うことができる。
木材製作所は、普段は職人が木材製品の制作を行う作業場である。
しかしその周りを自由に見学可能であり、木材商品ができるまでの過程を見ることができる。休日には木材家具の作成体験などのイベントを開催する。

イベントスペースも同様、木材製品の販売ができ、木材製品の普及を進める。

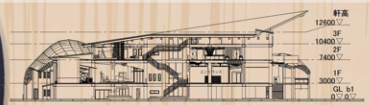
## ○遊ぶ　木育ひろば

木材の遊具などがあり、子供が集い、遊べる空間「木育ひろば」。木のトンネルや滑り台、隠れ場などを設置し、秘密基地にいるような自由な遊びが可能な空間を提供する。複数の種類の木材や、格子状の柵が異なるため、遊びながら木材の違い、接合の違いなどに気付いてほしい。

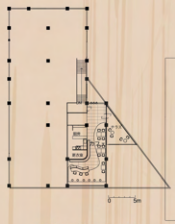
## ○環境とのつながり

木材は二酸化炭素を吸収する働きがあり、木材の利用を積極的に行うことで脱炭素化に貢献し、地球温暖化を抑制させるのに重要な働きをする。

建物内の装飾は木造建築を解体した際に出る解体材や端材を用いることにより、建物内で循環し、廃棄物を減らすことで資源を効率的に使用する。

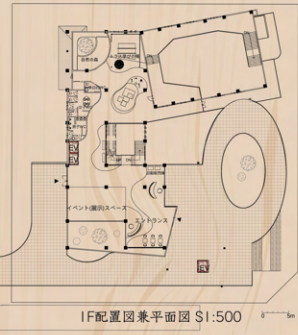



A-A'断面図 S1:500



3F平面図 S1:500

2F平面図 S1:500




1F配置図兼平面図 S1:500

b1F配置図兼平面図 S1:500

## ○ 聴く

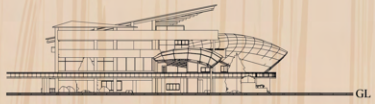
森林空間を再現し、光合成、四季の変化など木の様子を見て聞いて、体で感じる空間。

## ○ 学ぶ

木材資料コーナー

北立面図 S1:500

南立面図 S1:500




東立面図 S1:500

西立面図 S1:500